

平成27年度 広島グッドチャレンジ賞

広島グッドチャレンジ賞とは

広島グッドチャレンジ賞は、社会貢献の心をはぐくむボランティア活動等への生徒の積極的な参加を促し、活動への意欲を喚起するため、善いことを自ら進んで実践した生徒個人、グループ、生徒会を表彰します。表彰対象者は、広島市立中学校及び広島特別支援学校中学部の生徒個人、グループ及び生徒会となります。



今年は、平成28年1月8日（金）、広島市役所本庁舎2階講堂で、その活動を認められた個人29名、グループ107組、生徒会50校を表彰しました。それぞれの受賞者の活動が紹介される中、生徒たちは教育長から表彰状を受け取りました。その態度はとてもすがすがしく、堂々としていました。

中学生たちの活動例



「ボランティア清掃」美化活動



「絆ボランティア」福祉支援活動



「アルミ缶回収により得た資金で
車椅子寄贈」福祉支援活動

【個人の部】

- ・3年間で早朝ボランティア清掃に100回以上参加した。
- ・転倒し、動けなくなった方を、民生委員の方と協力して救助活動を行った。
- ・転倒していたお年寄りを見つけ、救急車の手配をするとともに、救急車が来るまで見守った。

【グループの部】

- ・地域で喜寿を迎えた方に、花を育て届けた。
- ・部活動で、毎朝、校門周辺の清掃活動を行っている。
- ・公民館祭り等、地域の行事の企画・運営などに携わり、積極的に活動した。

【生徒会の部】

- ・アルミ缶を回収して、学区内等の福祉施設へ車いすを寄付した。
- ・校内ボランティアや各種募金活動の企画・運営

受賞者代表の言葉から

個人の部

4年前、二葉中学校では、まちぐるみ「教育の絆」プロジェクトがスタートして、その取組の一つとして、中学生が学区の小学生や、地域の方々とグループを作り、地域の公園や集会所などの清掃活動をするクリーンマイタウン二葉という行事がはじまりました。

当時小学6年生だった私は、そのときグループで一緒になった中学生の優しい態度と、頼りがいのあるリーダーシップ、地域の方々に対する思いやりを見て、強い憧れを持ち、私も二葉中学校に入学したら、地域や人の役に立つことがしたいと考えるようになったのです。

二葉中学校はボランティア活動がさかんなことが、地域でも有名だったので、中学校に入学してからは、さまざまな学校のボランティア活動に参加しました。

私はボランティア活動を通じて、多くの経験を積み重ねることができました。ボランティア活動は無償の奉仕だとよく言われますが、得られるものはとてもたくさんあり、すべては自分のためになっているのだと、強く感じています。

後輩達には、二葉中学校のボランティア活動を、さらに活発にしていくとともに、二葉中学校にいつも協力してくださる地域の方々に少しでも恩返しをしてもらいたいと思っています。

広島市立二葉中学校 山口 泰市

グループの部

私たちAKV、阿戸絆ボランティアは、昨年度、広島市教育委員会より、まちぐるみ「教育の絆プロジェクト」の指定を受け、自分たち生徒にできる地域支援活動を行っているボランティアグループです。

今年は、隣にある阿戸認定こども園の夏祭りや、夏休みの阿戸盆踊り大会で夜店のお手伝いをしましたが、もっとも印象に残っているのは「花のお便りボランティア」です。

「花のお便りボランティア」とは、阿戸町で今年喜寿をお迎えになった方々に、これまでずっと見守っていただいた感謝を込めてお祝いをし、お花を届ける活動です。喜寿のお祝いと日頃から見守っていただいていることへの感謝の気持ちをお伝えし、お花を渡すと、とてもうれしそうに笑って「ありがとうございます。」など、たくさんの言葉をいただきました。

私は、これまで、ボランティア活動は相手のためにするものだと思っていましたが、やっているうちに自分のためにもなっていると実感しました。相手の人の笑顔と喜んでいる様子を見て、私もうれしくなります。先輩から受け継いだ、この素晴らしいAKV阿戸絆ボランティアを、これからは後輩たちに引き継いでいってほしいと願っています。

広島市立阿戸中学校 AKV阿戸絆ボランティア 中江 風愛

生徒会の部

私たちが「アルボラ」と呼んでいるこの活動は、平成12年から始まりました。当時のサッカー部のある先輩が練習中にけがをしてしまい、病院に行くと、思ったよりもひどいけがで一ヶ月入院することになったそうです。入院中、窓の外を眺め「いいなあ。」と言ってばかりの元気のない先輩に看護師さんが車いすを用意してくださったそうです。そのとき、足の不自由な人のつらさと車いすのありがたさを強く感じた先輩は、看護師さんから「プルタブをたくさん集めると車いすと交換できる」ことを聞いて、プルタブを集めて車いすに換える。そしてその車いすを足の不自由な人に贈るということを思いつきました。その日から一人でプルタブを集めたそうです。

その活動の輪は1年生全員、そして全校へ広がり、さらに地域の方々もこの活動を手伝ってくださるようになり、毎日、正門付近に設けたアルミ缶回収のカゴいっぱい、時にはあふれ出すくらいに集まるようになりました。

日浦中学校では、15年という長い期間、先輩が大切にしてきた活動を守り続け、合計で86台の車いすを贈ってきました。先輩方の思いを受け継いだ僕たちは、今も「アルボラ」の活動を続けています。車いす贈呈式で喜んでもらえる姿を見ると、これからも車いすを必要としている人たちに、少しでも多くの車いすを贈りたいと思いました。だから、僕たちは、これまで受け継がれてきた「アルボラ」に込められた思いを、もっと一人一人が大切にし、後輩たちに伝えていきたいと思っています。

広島市立日浦中学校生徒会 渡利 愛斗